

**2026年3月期
中間期決算説明会
(2025年4月～9月)**



0 1 : 2026年3月期中間期 実績

0 2 : 2026年3月期 業績予想

0 3 : Appendix

**2026年3月期
中間期決算実績
(2025年4月～9月)**



副社長 兼 CFO 齊藤 雅也

全地域で増収。特にアジア・欧州が牽引し、2桁大幅増収 原価率の上昇に加え、販管費が増加したものの、営業利益は増益に 営業外収益の増加により経常利益以下は大幅増益に

売上高:164,257百万円 対前18.1%増、計画を上回る進捗

- 日本:新製品が好調なリップクリーム、「肌ラボ」、サプリメントの「ロートV5」、前期発売の「Gyutto」等が好調に推移
子会社のロートニッテン(株)や天藤製薬(株)が好調に推移
- アジア:ベトナム、インドネシアなどの東南アジアが引き続き好調に推移
輸入ライセンスを取得できた事により生産可能となったミャンマーが増収に貢献
ユーヤンサン・インターナショナル社(EYS)が連結効果で売上に寄与
- アメリカ:医療用消毒薬等を製造・販売するハイドロックス・ラボラトリーズ社(ハイドロックス社)が引き続き好調に推移
ブラジルの連結子会社も増収に貢献
- ヨーロッパ:ポーランドのダクス・コスメティクス社(DAX社)が好調に推移。目薬も順調に推移
モノ社が連結効果で売上に寄与

営業利益:19,317百万円 対前8.6%増、計画を上回る進捗。EBITDAは対前年23.2%の増益

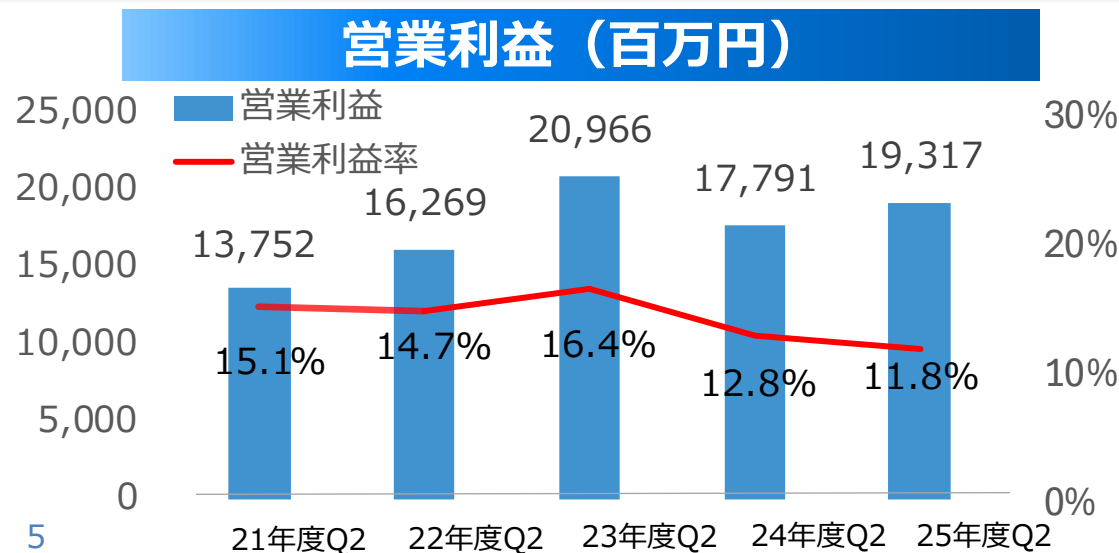
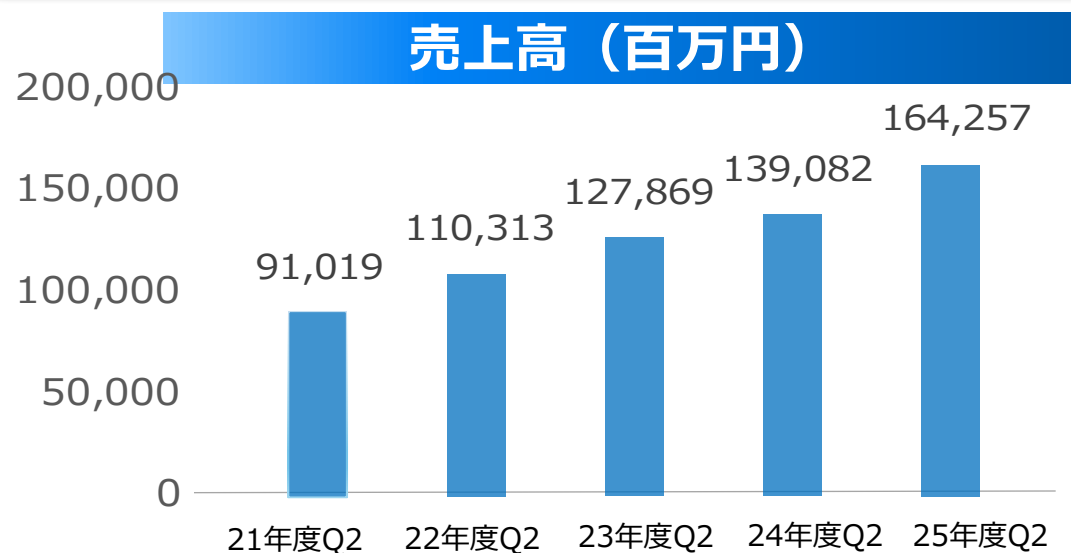
- 日本・アジア:大幅な増益
- アメリカ・ヨーロッパ:減益

通期業績予想(売上高、営業利益、経常利益、純利益)を8月6日公表値から更に上方修正
期末配当予想を1円増額し、年間43円、配当性向30.4%に。22期連続増配予定

連結業績の推移

2025年度の通期予想 売上高3,385億円 営業利益395億円に上方修正

	23年度 Q1-Q2	24年度 Q1-Q2	25年度 Q1-Q2	通期予想
売上高（百万円）	127,869	139,082	164,257	338,500
営業利益（百万円）	20,966	17,791	19,317	39,500
営業利益率	16.4%	12.8%	11.8%	11.7%
EBITDA（百万円）	25,088	22,236	27,395	56,584
EBITDAマージン	19.6%	16.0%	16.7%	16.7%



連結損益



(百万円)	2025年度			2025年度			2024年度	
	金額	Q1-Q2		金額	Q2のみ		Q1-Q2	Q2のみ
		売上比	対前年(%)		売上比	対前年(%)	金額	金額
売上高	164,257	100.0	18.1	82,292	100.0	16.4	139,082	70,725
売上総利益	91,183	55.5	16.1	45,330	55.1	15.0	78,507	39,431
販管費	71,865	43.8	18.4	37,711	45.8	12.8	60,716	33,430
販促費	9,724	5.9	23.0	5,405	6.6	26.0	7,906	4,290
広告費	18,476	11.2	2.6	10,537	12.8	▲4.3	18,009	11,005
研究開発費	6,688	4.1	▲17.5	3,302	4.0	▲26.3	8,107	4,480
その他	36,975	22.5	38.5	18,466	22.4	35.2	26,693	13,653
営業利益	19,317	11.8	8.6	7,618	9.3	27.0	17,791	6,000
経常利益	24,609	15.0	32.4	8,481	10.3	34.3	18,590	6,317
親会社株主に帰属する 当期純利益	17,652	10.7	36.6	5,883	7.1	32.6	12,921	4,438
EBITDA	27,395	16.7	23.2	11,609	14.1	41.6	22,236	8,198

- ・全地域で増収達成により大幅増収
- ・為替レート：
 - USドル146.25円（前期153.65円）△4.8%
 - 中国元20.47円（前期21.05円）△2.8%
- ・為替の影響：
 - 売上△20.9億円、営業利益△1.4億円の影響
- ・EYS：
 - のれん償却7.7億円
 - 商標権/その他無形固定資産の償却費4.4億円
 - のれん等償却後の黒字は確保
- ・原価率：0.9ポイント上昇
 - （クオリテックファーマ（QTP）、天藤製薬、中国、インドネシア、英国の影響大）
- ・EYS、モノ社取得による減価償却費増と人件費増により販管費が増加
- ・受取配当金の計上により営業外収益増加

2桁大幅増収

原価率の上昇に加え販管費が増加したものの、大幅増収により営業利益が増益

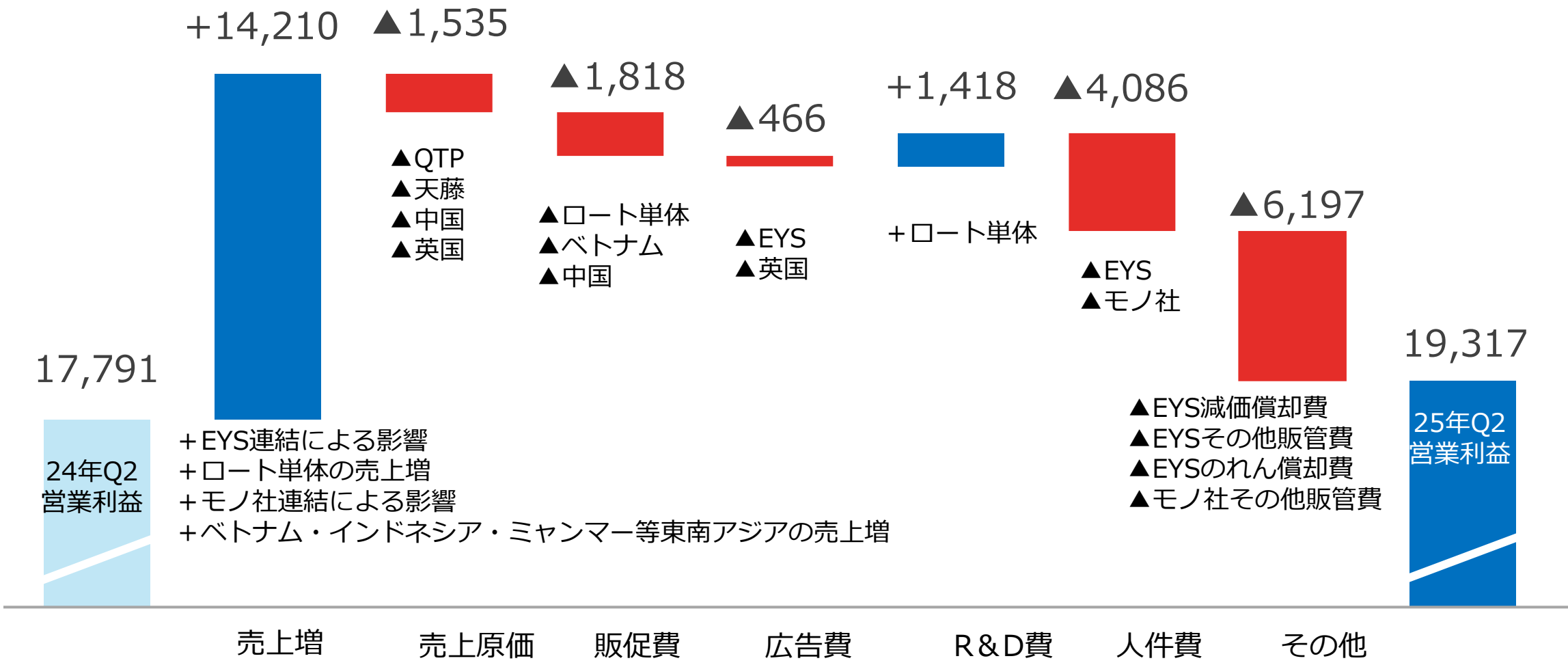
売上・営業利益共に計画を上回る進捗

営業外収益の増加により経常利益、当期純利益ともに大幅増益

営業利益増減の要因（前年同期比較）



単位：百万円



セグメント別売上マトリックス（修正前予想使用）

	日本		海外										合計	
			アジア		アメリカ		ヨーロッパ		その他		海外計			
	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率	(百万円)	増減率
アイケア	11,141	6.2	7,340	7.7	1,309	▲5.3	221	184.4	56	-	8,928	7.9	20,069	6.9
スキンケア	46,958	4.6	30,893	7.2	6,563	6.2	8,447	7.6	1,445	▲1.0	47,350	6.9	94,309	5.7
内服・食品	11,509	▲2.2	16,015	3,497.0	15	27.4	46	▲16.0	201	1.5	16,278	2,187.8	27,788	122.6
メディカル	12,935	▲2.3	1,827	226.0	1,926	▲5.3	1,142	16,302	0	-	4,896	88.2	17,831	12.6
その他	1,015	▲3.5	1,271	▲0.3	291	▲32.8	1,679	4,253.2	0	-	3,242	85.5	4,257	52.1
合計	83,559	2.6	57,348	51.3	10,107	0.6	11,538	43.7	1,703	2.7	80,697	40.0	164,257	18.1
修正前通期予想	171,200	3.8	116,000	15.6	20,200	▲2.7	23,800	24.2	3,300	▲2.0	163,300	13.7	334,500	8.4
進捗率(%)	48.8		49.4		50.0		48.5		51.6		49.4		49.1	

【日本】

- ・アイケア増収：コンタクト用剤や目薬、若者用目薬が増収
- ・スキンケア増収：リップクリーム、肌ラボ、Gyuttoが増収
- ・内服・食品減収：ロートV5は二桁増収、天藤製薬が増収、エピステームドリンクの減収
- ・メディカル減収：ロートニッテンが増収、QTP減収

【アジア】

- ・アイケア増収：ミャンマー・ベトナム・インドネシアの増収
- ・スキンケア増収：インドネシア・ミャンマー・台湾・中国の増収
- ・内服・食品増収：EYS連結効果
- ・メディカル増収：EYS連結効果

【アメリカ】

- ・アイケア減収：為替の影響
- ・スキンケア増収：ハイドロックス社の増収
- ・メディカル減収：ハイドロックス社の医療機関向の減収
同社全体では増収

【ヨーロッパ】

- ・アイケア増収：中東向製品の増収
- ・スキンケア増収：Hadalabo Tokyo等好調なDAX社増収
- ・メディカル増収：モノ社の連結効果
- ・その他増収：モノ社の連結効果

セグメント別営業利益（修正前予想使用）

（百万円）	2025年度 Q2	構成比（%）	前期比（%）	修正前予想	進捗率（%）	2024年度 Q2	構成比（%）
日本	11,061	57.3	12.0	21,700	51.0	9,872	55.5
アジア	7,139	37.0	18.3	12,800	55.8	6,037	33.9
アメリカ	428	2.2	▲35.1	1,400	30.6	659	3.7
ヨーロッパ	225	1.2	▲58.2	2,000	11.3	538	3.0
その他	118	0.6	▲18.5	300	39.3	145	0.8
調整額	345	1.8	▲35.7	800	43.1	536	3.0
合計	19,317	100.0	8.6	39,000	49.5	17,791	100

売上高：835億59百万円 前期比 +2.6%
営業利益：110億61百万円 同 +12.0%

売上高835.59億円：計画を上回る進捗

- コンタクト用剤やコンタクト用目薬、若者用目薬などアイケア好調
- リップクリームや「肌ラボ」、サプリメントの「ロートV5」、前期新発売のヘアマスク「Gyutto」、日やけ止め、胃腸薬等が好調に推移
- インバウンド需要過去最高を更新
- ロート単体だけでなく、ロートニッテン、天藤製薬も増収に寄与
- ロート単体：1桁半ば%増収、QTP：1桁後半%減収、ロートニッテン：1桁後半%増収、天藤製薬：1桁後半%増収

営業利益：110.61億円：計画を上回る進捗

- ロート単体の原価率はほぼ横ばい、QTP、ロートニッテン、天藤製薬など子会社の原価率が上昇
- 原価率が上昇したものの研究開発費が減少したことにより大幅増益
- ロート単体：20%以上の増益、QTP・ロートニッテン・天藤製薬：減益



新色も大人気のプランパーリップ 肌質や好みの使用感で「肌ラボ」を選ぶ事をPR

10

新発売のロートV5 目×睡眠Wケアも人気
「第12回健康医療アワード」受賞

「Gyutto」数々の賞を受賞！
大人のクセ髪トリートメント

アジア 大幅な増収増益

売上高：573億48百万円 前期比 +51.3%
営業利益：71億39百万円 同 +18.3%

売上高573.48億円：計画を上回る進捗

- ベトナム、インドネシアなど東南アジアが好調を持続
- 2Qよりミャンマーで輸入ライセンスを取得できた事で生産が可能となり増収に貢献
- 香港、中国の市況は依然として低調なものの、中国が現地通貨ベースで対前プラスに転じ、香港・中国で増収を確保
- EYSが連結効果で売上に寄与するもシンガポール・香港市場減速の影響を受ける
EYS売上：現地通貨ベース対前1桁後半%減収、計画未達
- 「肌ラボ」、「アクネス」、フケ抑制シャンプー「セルサン」、目薬等が好調に推移

営業利益71.39億円：計画を上回る進捗

- EYSのれん償却（7.7億円）、商標権/その他無形固定資産の償却費（4.4億円）
EYS営業利益（のれん償却前）：現地通貨ベース対前2桁%減益、計画未達
（のれん等償却後の黒字は確保）
- ミャンマー、香港の増収が寄与して計画を上回る増益

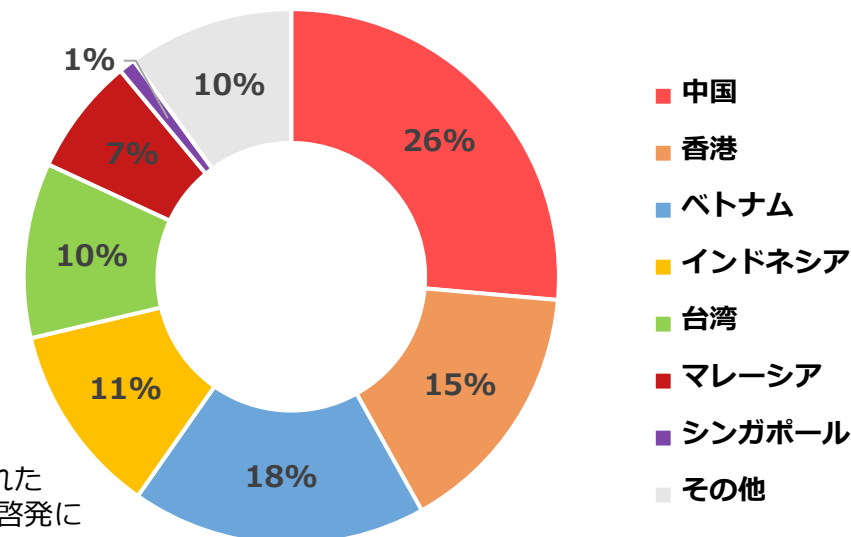


ベトナムでは「肌ラボ」発売15周年キャンペーンを行い新規ユーザーの獲得に成功



ミャンマーでは目薬やアクネスの輸入・販売が再開された事をうけ、SNS等で「Back Stock」と既存ファンへの啓発に注力

アジアの国別売上構成比（EYS除く）



売上高：101億7百万円
営業利益：4億28百万円

前期比 +0.6%
同 ▲35.1%

売上高101.07億円：計画を上回る進捗

- 為替の影響 ▲6.9億円
- 医療用消毒薬等を製造・販売するハイドロックス社が好調を継続
- ブラジルのオフサルモス社の眼科向製品やメンソレータムブラジルも「肌ラボ」等スキンケアが好調で増収に寄与
- ハイドロックス社：2桁%増収、オフサルモス社：2桁%増収、メンソレータムブラジル：2桁%増収（現地通貨ベース）

営業利益4.28億円：計画を上回る進捗

- 為替の影響 ▲0.6億円
- 販売費及び一般管理費の増加により減益に
- ハイドロックス社増益、オフサルモス社増益



ハイドロックス社の医療機関向消毒剤



夏シーズンに合わせて
アウトドアインフルエンサーとの
コラボで目薬のキャンペーンを実施



ワシントンDCにて「ハダラボTokyo」で
Cherry Blossom Eventを実施
大盛況で増収に貢献



「肌ラボ」はブラジルオンラインストア
「Mercado Livre」に公式ストアを開設し
販路を拡大

ヨーロッパ 大幅な増収・減益

売上高：115億38百万円
営業利益：2億25百万円

前期比 +43.7%
同 ▲58.2%

売上高115.38億円：計画未達

- 「Perfecta」や販売国を拡大した「Hadalabo Tokyo」が好調なDAX社が引き続き好調に推移
- 「ロートドライエイド」が順調に推移
- モノ社が連結効果で増収に寄与
- DAX社：2桁%増収（現地通貨ベース）

営業利益2.25億円：計画未達

- 英国において消炎鎮痛剤の容器供給業者の倒産による生産量低下と代替業者の単価上昇により原価率が上昇し減益
- DAX社：2桁半ば%増益（現地通貨ベース）



3月新発売の「Coldamaris Protect点眼液」は医療機関および薬局への同時プロモーションと共に、消費者への認知向上を図るためPRを行った
今後、点鼻薬等主力事業を欧州、他地域へ展開予定
モノ社の無菌生産ラインと薬事力をベースに欧州にロートのアイケアを広げる予定



「Hadalabo Tokyo」は英国やポーランドに加えて今期クロアチアでも上市開始
トルコ小売大手Gratisとの販売促進や、スペイン、南アフリカでの展開など新規市場の伸びが成長ドライバーに

**2026年3月期
業績予想
(2025年4月～2026年3月)**



代表取締役社長

瀬木 英俊

- 国内は継続した物価上昇による家計の節約志向の高まりが懸念されるものの賃上げや設備投資の拡大などにより
緩やかな持ち直し基調を想定
- 海外では通商政策の不確実性の高まり等により、個人消費環境の厳しい状況が続くと想定
- 2026年3月期も売上は過去最高を更新
- 為替の影響があるものの増益を確保する予定
- 上期の日本およびアジア、アメリカが想定を上回り好調に推移したことと、下期も順調に推移すると見込まれるため、
連結業績予想に反映させ、**連結業績予想を上方修正**
売上、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が前回発表を上回る
- 日本
 - ✓インバウンド需要は不確実であるものの国内消費は手堅く推移と見込む
 - ✓コア事業が引き続き成長予定
 - ✓中長期の持続的成長に向けて継続投資
 - ✓QTPは減収減益予定
- 海外
 - ✓円高の影響
 - ✓ミャンマーが増収に転じる
 - ✓ベトナム・インドネシア等東南アジアが引き続き成長を牽引予定
 - ✓中国、香港市場が引き続き厳しい状況が続くと予想
 - ✓EYS、モノ社の通期を連結範囲に含める
- 22期連続増配予定、**配当性向30.4%**を予定

業績見通し（上方修正）

- 売上高、経常利益、当期純利益は過去最高を更新予定
- 売上高：+40億円、営業利益：+5億円、経常利益：+10億円、純利益：+5億円を更に上乗せ
- 為替予想の修正：1ドル142円から148円へ修正、1元19円から20円へ修正
- 為替の影響（対前年）：売上△61億円、営業利益△7億円
- EBITDAマージン 16.7%予定

	2025年度通期予想				2025年度		2024年度
(百万円)	修正予想 (B)	構成比	対前年 (%)	増減額 (B-A)	8/6公表値 (A)	対前年 (%)	実績
売上高	338,500	100.0	9.7	4,000	334,500	8.4	308,625
営業利益	39,500	11.7	3.3	500	39,000	2.0	38,234
経常利益	44,000	13.0	10.8	1,000	43,000	8.2	39,725
親会社株主に帰属する 当期純利益	32,000	9.5	3.8	500	31,500	2.1	30,841
為替（ドル/円）	148.00				142.00		152.61
為替（元/円）	20.00				19.00		21.02

※前期の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、対前年 (%) は、2025年度 Q1において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を反映した 遡及修正後の数値で算出

セグメント別売上予想（上方修正）

- アジアはミャンマーをはじめ東南アジアが好調なため +37億円
- アメリカはハイドロックス社が好調なため + 3 億円
- 為替の影響（対前年）：アジア△47億円、アメリカ△11億円、ヨーロッパ+ 0 億円、その他△ 2 億円

(百万円)	2025年度通期予想				2025年度		2024年度
	修正予想 (B)	構成比	対前年 (%)	増減額 (B-A)	8/6公表値 (A)	対前年 (%)	実績
売上高	338,500	100.0	9.7	4,000	334,500	8.4	308,625
日本	171,200	50.6	3.8	0	171,200	3.8	164,988
アジア	119,700	35.4	19.3	3,700	116,000	15.6	100,336
アメリカ	20,500	6.1	▲1.3	300	20,200	▲2.7	20,769
ヨーロッパ	23,800	7.0	24.2	0	23,800	24.2	19,163
その他	3,300	1.0	▲2.0	0	3,300	▲2.0	3,366
為替（ドル/円）	148.00				142.00		152.61
為替（元/円）	20.00				19.00		21.02

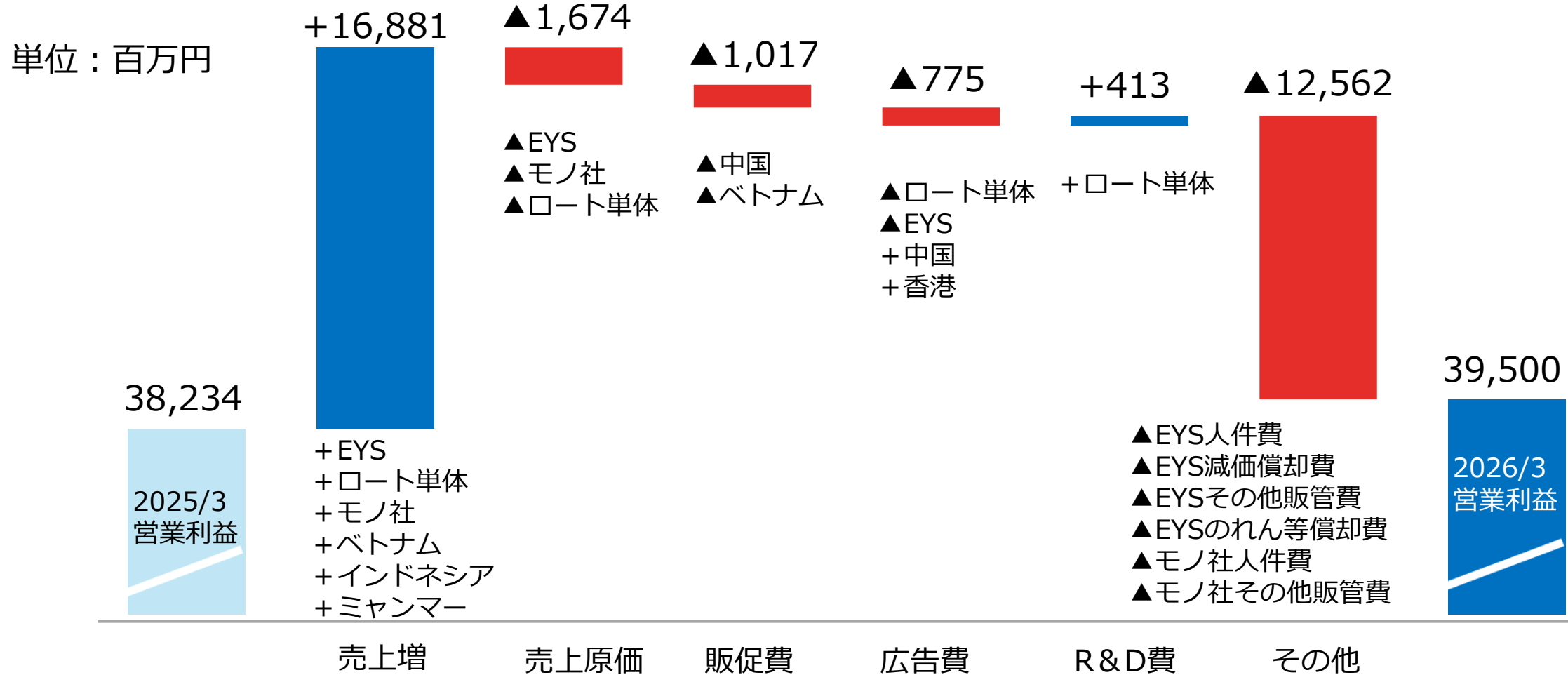
セグメント別営業利益予想（上方修正）

- 日本はロート単体が好調なため +6億円
- アジアはミャンマーをはじめ東南アジアが好調なため +5億円
- ヨーロッパは英国で消炎鎮痛剤の仕入れ先変更の影響による原価率の悪化のため △6億円
- 為替の影響（対前年）：アジア△7億円、アメリカ△1億円、ヨーロッパ+0億円、その他△0億円

(百万円)	2025年度通期予想				2025年度		2024年度
	修正予想 (B)	構成比	対前年 (%)	増減額 (B-A)	8/6公表値 (A)	対前年 (%)	実績
営業利益	39,500	100.0	3.3	500	39,000	2.0	38,234
日本	22,300	56.5	▲0.7	600	21,700	▲3.4	22,453
アジア	13,300	33.7	14.7	500	12,800	10.4	11,595
アメリカ	1,400	3.5	▲9.2	0	1,400	▲9.2	1,542
ヨーロッパ	1,400	3.5	▲1.0	▲600	2,000	41.4	1,414
その他	300	0.8	▲15.3	0	300	▲15.3	354
調整額	800	2.0	▲8.5	0	800	▲8.5	874
為替（ドル/円）		148.00			142.00		152.61
為替（元/円）		20.00			19.00		21.02

※前期の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、対前年 (%) は、2025年度 Q1において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を反映した 遡及修正後の数値で算出

2025年度 営業利益増減の要因見通し



※前期の営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、対前年（％）は、2025年度 Q1において行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を反映した 遡及修正後の数値で算出

ロートサイエンスを進化させ、**セルフケアのコア事業の収益最大化**
プロフェッショナルケアへの基盤を構築し、Well-beingの輪を広げる

コア事業

コア事業のグローバル展開
新分野への拡大



コア事業である
アイケア、スキンケアでの
確実な成長と収益の確保、
ヘアケアなどの新分野の確立



成長事業

技術商品力の
深化と拡充



フィットサイエンス素材を用いた
内服・食品事業での
売上・収益の成長拡大



未来への投資

メディカル事業の
基盤構築



10年先の当社の事業を
けん引するメディカル領域
(眼科、皮膚科、整形・運動)
の基盤構築



* フィットサイエンスとはロート製薬が提唱する、自然界の力を科学的に解明し、社会に貢献する新たな事業戦略です。特に、自然素材の活性や機能（フィットパワー）に着目し、地域資源や技術を活用して、持続可能な社会づくりを目指しています。

- 2025年11月13日 Waldencast社の傘下であるOBAGI社から日本での「Obagi」商標取得を契約締結
- 取得金額：82.5百万US\$（約124億円）
- 現状：ロートがOBAGI社に「Obagi」のロイヤリティを支払い
日本のコンシューマーチャネルで自社開発の「Obagi」製品を販売
- 今後：日本でのオバジ商標と日本での全ての販売チャネルにおける永久的なライセンス権及び販売権を取得
する事により、コンシューマーチャネルだけでなく美容クリニックやエステ等全てのチャネルでの展
開が可能となる
今後、日本におけるブランドの強化・拡大にさらに力をいれていく
- 「Obagi」ブランドとは：
ロサンゼルスで活躍するスキンケア研究者オバジ氏が提唱する
肌本来の力を活かし健康的で美しい素肌を目指す「SHR理論」に
基づき、ロート製薬が日本人の肌に合うように改良を重ね、
確かな効果を追求し、2001年日本で発売したブランド。
機能性化粧品・ドクターズコスメの先駆者的存在で、
ロートスキンケア事業のパイオニア・フラッグシップブランド



□ アイケアリテラシーを高め、若年層の需要を喚起



SixTONESを起用したプロモーションや万博での体験展示を通して全世代にアイケアの重要性を伝える

□ スキンケアの確実な成長



国内：メラノCCやオバジ、肌ラボから新製品発売予定
海外：「Hadalabo Tokyo」展開国を拡大中

□ ヘアケア新分野の確立



国内：「プロリー リペアカラートリートメント」3色新発売
海外：「セルサン」の浸透と推奨を図るため様々なイベントを実施

□ アニマル新分野に展開



アニマル事業ブランド「Anitto（アニット）」新発売

□ フィトサイエンスのサプリメント



サステナブルな次世代栄養源
「100%藻類由来 DHA/EPA」新発売

日本初の藻類農園FARMOおよび
ロート藻類テクノロジー研究所は
ロート製薬が掲げる
「フィトサイエンス構想」の一環として
藻類を未来の農作物と捉え
その可能性を探るための
研究・生産拠点

□ 新発想の美容ドリンク



日経トレンドイ
ヒット予測2026
選出商品

「MOCOLA（モコラ）ダブルインパクトショット」新発売

□ 胃腸薬でも若年層の需要を喚起



若年層にも響く印象的なフレーズ

眼科領域

□ ロートニッテン（株）が堅調



今後も医療用眼科用薬を新発売予定

皮膚領域

□ 難治性創傷への新たなアプローチ オートロジェル



□ クリニック限定化粧品 拡大中

国内：「DRX」20周年

インドネシア：2014年発売「Dermacept RX」



ハイドロキノンや
アゼライン酸などを配合
医師の指導の元に使用する
機能性化粧品ブランド

□ アメリカでハイドロックス社が好調に推移



2025年10月に
DERMACEPT RX VITAMIN C GEL SERUMを
新発売

人的資本の最大化に注力



ロート製薬は、会社と社員の共成長を目指す「全員参画のWell-being経営」を推進し、持続可能なWell-being社会の実現に貢献します。

「ROHTO Well-being LIFE宣言」を具体化する取り組みとして、社員の自己成長と社会への還元を支援する制度を新設しました。

□新しい働き方「ビヨンド勤務」を導入

- ・週3日または週4日の勤務を基本とし、残りの日数を副業や学び、社会貢献、資格取得などに充てることができる
- ・社員が社外での経験や学びを通じて得た知見を職場に還元し、組織全体の活性化と、新たな価値創造につなげていくことを期待

□「コアなしフレックス制度」を導入

育児や介護などライフステージに応じた働き方を希望する社員はフレックス制度を、挑戦や学びを深めたい社員はビヨンド勤務を選択するなど、多様な働き方を支援

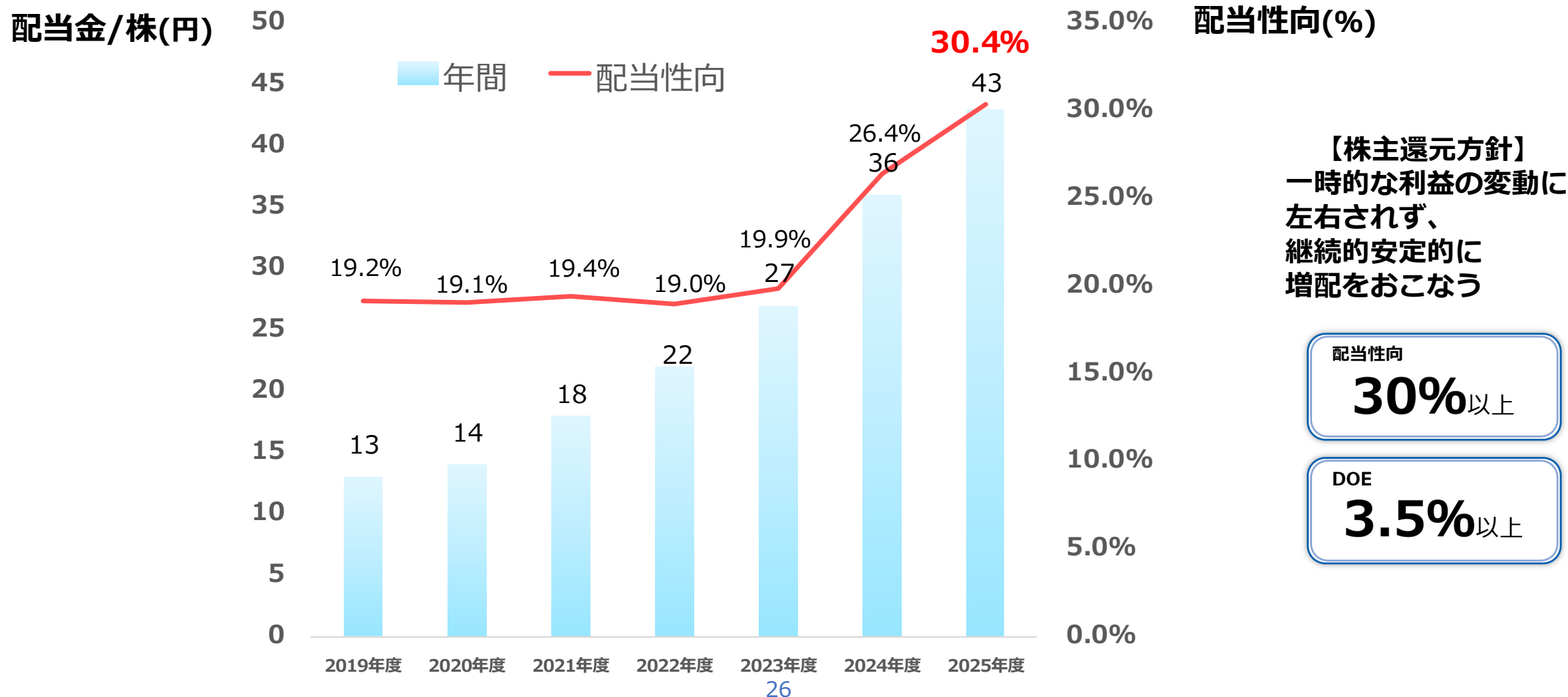
□ロート製薬における主な働き方関連制度

- 「リスキリング休職制度」（2025年6月～）
- 「社内起業家支援制度『明日二八』」（2020年～）
- 「社外チャレンジワーク（複業制度）」（2016年～）
- 「社内Wジョブ（社内兼務）」（2016年～）

※ 「ROHTO Well-being LIFE宣言」とは、社員の自律と社会への参画を促す宣言

株主還元（期末配当を1円増配予定）

中間配当21円、期末配当22円 年間43円、配当性向30.4%に増配予定



Rohto

Appendix

**世界の人々に商品やサービスを通じて健康をお届けすることによって、
当社を取り巻くすべての人や社会を「Well-being」へと導き、
明日の世界を元気にすること。**

経営理念

1. 豊かで幸せな生活を送るための心身の健康に貢献し続けることがロートの最大の責務と捉え、その実現のために長期視点での経営と価値創出に努める
2. ロートは、社会の公器としての使命を自覚し、ロートを取りまく全ての人達と協働して社会課題を解決し、これにより得られた便益を共有する

ロート製薬は、世界の人々が Well-being を実感できる時間が少しでも長くなるように、

医薬品、スキンケアに加え、さまざまな事業で イノベーションを起こし幅広く「つなげていく」

それを実現するために、社内外の仲間同士を、組織と組織をしっかり「つなげていく」

そして信頼の連鎖の上に人材を育成し、一体感ある組織を作り上げ、人々の更なる Well-being に「つなげていく」

事業活動を通じて世界の人々のWell-beingに貢献するとともに、
健康で幸せに過ごすことができる持続可能な社会の実現を目指しています。

ロートは、ハートだ。



各国の売上高成長率（現地通貨ベース）

2024年（前年比）

2025年（前年比）

	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q
ロート単体	+10%台前半	+1桁前半	+1桁後半	▲1桁前半	+1桁半ば	+1桁前半	+1桁半ば
中国	+1桁半ば	▲1桁半ば	▲1桁前半	▲1桁後半	▲1桁半ば	▲1桁前半	+1桁前半
香港	+1桁前半	▲10%台前半	▲1桁半ば	▲1桁前半	▲1桁半ば	+1桁前半	+1桁半ば
台湾	+1桁半ば	+1桁後半	+1桁半ば	+1桁後半	+1桁半ば	+10%台前半	+1桁前半
ベトナム	+1桁後半	+20%台前半	+20%台前半	▲1桁前半	+10%台前半	+10%台前半	+10%台前半
インドネシア	+30%台半ば	+1桁後半	+10%台半ば	+10%台後半	+10%台後半	+30%台半ば	+20%台半ば

2025年上半期 国内主要ブランド別売上



ドラッグストア基礎化粧品ブランドNo. 1 ※



前期比: +6.7%
構成比: 13.6%

New



New



前期比: ▲7.7%
構成比: 5.9%

9/10「オバジX バイタライズ リフトクリーム」リニューアル



リップクリーム



前期比: +26.1%
構成比: 7.8%

※ インターゲージSRI+ [Weekly]

対象カテゴリー: 基礎化粧品計 (4カテゴリー)

累計期間: 2025年4月～2025年9月、個数ベース

日やけ止め



New



前期比: ▲9.9%
構成比: 11.4%



前期比: +6.0%
構成比: 6.2%



前期比: +12.5%
構成比: 7.4%



8/30化粧水リニューアル

※前期比: 売上の増減率 (2025年度上半期 vs 2024年度上半期)

※構成比: ロート単体に占める各ブランドの売上比

2025年上半期 アジア内主要ブランド別売上



目薬

前期比: +7.0%
構成比: 12.7%



前期比: +27.7%
構成比: 12.1%



日やけ止め

前期比: ▲11.4%
構成比: 10.7%



Selsun

前期比: +26.9%
構成比: 5.8%



男性化粧品

Men^{tholatum}
曼秀雷敦男士



前期比: ▲11.2%
構成比: 4.7%



Mentholatum[®]
Acnes



前期比: +26.3%
構成比: 7.8%



リップクリーム



前期比: +5.0%
構成比: 3.4%



50 MEGUMI



前期比: +11.9%
構成比: 3.3%

広告・研究開発・資本的支出・減価償却費の推移



広告費・研究開発費

(単位：百万円)

	2023年9月期	2024年9月期	2025年9月期	± 増減額
広告費	15,977	18,009	18,476	466
売上比	12.5%	12.9%	11.2%	-
研究開発費	5,663	8,143	6,741	△ 1,401
売上比	4.4%	5.9%	4.1%	-

2023年度	2024年度	2025年度予想
37,977	39,224	40,000
14.0%	12.7%	11.8%
13,461	14,995	14,500
5.0%	4.9%	4.3%

資本的支出と減価償却費

(単位：百万円)

	2023年9月期	2024年9月期	2025年9月期	± 増減額
資本的支出	4,671	5,167	6,533	1,366
減価償却費	3,922	4,267	7,071	2,804
のれん償却額	199	178	1,006	827

2023年度	2024年度	2025年度予想
10,100	15,070	17,005
8,251	12,096	15,004
436	1,205	2,079

※資本的支出は、有形固定資産及び無形固定資産の合計額
 ※減価償却費はのれん償却額を除く
 ※オバジ商標取得の影響を除く

為替レートの推移



為替（USドル/円）

	2023年9月期 実績	2024年9月期 実績	2025年9月期 実績	増減額	増減率(%)
期 中 平 均 レ ー ト	138.69	153.65	146.25	-7.40	△ 4.82
期 末 レ ー ト	146.20	144.80	146.92	2.12	1.46

2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想
143.31	152.61	148.00
150.67	149.67	-

為替（中国元/円）

	2023年9月期 実績	2024年9月期 実績	2025年9月期 実績	増減額	増減率(%)
期 中 平 均 レ ー ト	19.45	21.05	20.47	-0.58	△ 2.76
期 末 レ ー ト	19.94	22.04	20.19	-1.85	△ 8.39

2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想
19.82	21.02	20.00
19.93	21.67	-

■ 医療用点眼薬

2050年の近視人口は50億人を超え、社会課題となる近視進行へ効果を示すROH-001がP2ステージへ。

医療用眼科領域パイプライン一覧 (2025年5月時点)					ステージ					目標※1
領域	コード	予定適応症等	予定地域	連携先	非臨床	P1	P2	P3	申請	
医療用 眼科	ROH-101	CMV※2 角膜内皮炎	日本	Théa、 (株)エムズサイエンス						▶ 2026年承認
	ROH-201	ドライアイ※3	日本	日本たばこ産業(株)						▶ 2028年承認
	ROH-202	眼科用治療剤	日本	(株)デ・ウエスタン・ セラピテクス研究所						-
	ROH-001	近視進行抑制	日本	(株)坪田ラボ						-

※1 目標は連携先との合意ではない当社の目標 ※2 サイトメガロウイルス ※3 シェーグレン症候群患者を含めたドライアイ患者 ・ ROH-101 : P3 終了・ ROH-201 : P2b 終了・ ROH-001 : P1 終了

■ 再生医療等製品

変形性関節症、重症心不全はP2のステージへ。2030年以降の新薬導入へ。

再生医療パイプライン一覧 (2025年5月時点)						ステージ					現在のステージ 終了目標※1
領域	細胞種	コード	予定適応症等	予定地域	連携先	非臨床	P1	P2	P3	申請	
再生 医療	ヒト脂肪由来幹細胞	ADR-001	肝硬変	日本	塩野義製薬(株)						(P2終了)
		ADR-002K	重症心不全	日本							▶ 2029年度
		ADR-001	腎疾患	日本							(P2準備中)
		ADR-001	重症下肢虚血	日本							▶ 2025年度
		ADR-001	肺線維症	日本							▶ 2025年度
	ヒト臍帯由来幹細胞	UDI-001	神経変性疾患	日本							(P1終了)
	軟骨細胞キット※2		外傷性軟骨欠損	日本							(申請準備中)
			変形性関節症	日本							▶ 2027年度

※1 目標は連携先との合意ではない当社の目標 ※2 インターステム社 (当社子会社)

- 本資料は、投資判断の参考として、弊社の現状を理解して頂くために作成したものです。
- 本資料に記載された内容は、作成時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢および弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本資料には、医薬品等（開発品を含む）に関する情報が含まれていますが、これらは宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。
- 投資を行う際は、ご自身の判断において行っていただきますようお願いいたします。
- 本資料を利用することにより生じた、いかなるトラブルおよび損失、損害に対して、弊社は一切責任を負いません。

Rohto